

## 相馬地方におけるGAP認証取得の動きについて

県では、震災と原発事故で傷ついた生産者のプライドを、GAP認証取得の取組を通して、新しい誇りを創り上げたいと考えており、特に東京オリンピック・パラリンピックで多くの皆さまに福島の美味しい農産物を食べていただき、真摯に農業に向き合う福島の姿と、これまでの応援に対する感謝の気持ちを伝えたいと考えております。

今回は、平成29年度に推進した結果と、次年度の取組等について報告します。

### 1 農林事務所の動き

GAPへの理解を深める目的で相双地方GAP研修会を開催しました(写真1)。また、JGAP個人認証に取り組む農業者に対しては認証取得に向けた技術支援を行いました。さらに「相双地方GAP推進協議会」を設置し、市町村、JA等と連携し、相馬地方におけるGAP認証取得の推進方策等を確認しました。

### 2 農業者の動き

研修会等への参加を通じGAP認証取得への関心が高まり、農林事務所への問い合わせや具体的な相談等、活発な動きが見られはじめています。

### 3 JAふくしま未来の動き

JAふくしま未来は、早い時期から生産部会等の組織力を生かしJGAP団体認証取得に向けた取組を進めることとし、生産者を集めた研修会等を重ね、各部会との調整を図ってきました。

### 4 JGAP認証取得状況

新地町の「株式会社グラン・ファーム」が、相馬地方で初めてJGAP認証取得となりました(写真2)。また、県の補助事業を活用してJGAP認証取得に取り組む個別経営体が5件、さらにはJA団体認証に相馬地方から4人が参加する等、確実な成果と広がりが見られました。

### 5 平成30年度に向けた取組

今、全国的に第三者認証GAPを取得する取組が活発になっています。特に、2020東京オリンピック・パラリンピックにおいて食材を調達するための基準の中で、GAP認証取得が要件になることから注目が一段と高まっています。

しかし、GAPはもともと農薬や肥料の使い方、土や水等の生産環境、働く人の待遇等、あらゆる生産工程を点検・記録しながら、安全で品質の良い農産物の生産にむすびつける活動です。

この本来の趣旨を理解していただくために、当部では、引き続き研修会や個別相談を開催するほか、GAPの実践に取り組む農業者に対しては、強力に支援してまいります。



写真1  
農業者70余名の出席で、盛会裏に開催することができました。



写真2  
会社運営のツールとして、JGAPを導入しました。

## ～地域農業の再生に向けて～ 飯崎地区における、基盤整備後初の大豆生産

### <飯崎地区における大豆生産と基盤整備について>

南相馬市小高区飯崎地区の、担い手である飯崎生産組合（水谷隆組合長）では、震災の影響で一時停止していた基盤整備が平成26年から再開されたことに併せて、スムーズな営農開始に向けて大豆の試験栽培を始めました。平成28年度からは、避難指示解除にともない本格栽培に移行し、省力的な土地利用型作物として大豆8.9haを作付しました。今年度は基盤整備が完了した農地を含め17haで大豆を栽培しました。飯崎地区では約100haの基盤整備が計画されており、水稻や大豆などの作物が作付される予定となっています。

### <大豆の生育>

本年度の大豆については、放射性物質吸収抑制対策のため土壌分析に基づき硫酸カリを散布し、5月30日から播種しました。播種後の降雨で出芽不良が懸念されましたが、排水対策の徹底により、被害は最小限に抑えられました。その後は順調に生育し7月29日には開花期を迎えました。しかし、7月下旬からの低温・日照不足により、さや着きが悪く、生育が旺盛で倒伏のみられたほ場では特に着莢（ちゃっきょう）数が少なくなりました。11月17日から刈取が行われましたが、10月の断続的な降雨により、紫斑やしわ等の被害粒の発生が多くなりました。



コンバインでの収穫作業の様子



現地検討会の様子

### <現地検討会の開催>

7月には小高区飯崎のほ場にて、大豆新品種「里のほほえみ」導入展示ほの現地検討会を開催しました。検討会には農業者をはじめとする約40名が参加しました。「里のほほえみ」の生育状況を見ながら、生産者である飯崎生産組合の水谷組合長より生育状況等についてお話いただきました。生育良好な大豆ほ場を前に、「里のほほえみ」について理解を深めていただくとともに、新品種の拡大に向けて、積極的な意見交換がなされました。

### <新品種「里のほほえみ」について>

「里のほほえみ」は、平成28年度に県の奨励品種に採用されました。生育は「タチナガハ」並の中生の晩であり、収量は「タチナガハ」並～やや多く、機械刈取適性も高いことから、「タチナガハ」と並ぶ有望な品種として期待されています。ただし、「里のほほえみ」は粒が大きく、大粒の中でも粒揃いが悪くなる場合がありますので、より大きな網目のふるいを使用する等、十分な選別を行ってください。また、大粒のため裂皮しやすいので、早播きは避けてください。

### <平成30年度の取組>

飯崎生産組合では、新たに基盤整備が完了する21haと未整備農地5haの計26haで大豆の作付けをする予定です。現在、未整備農地では緑肥作物を栽培しており、次年度の大豆栽培に向けて、土壌改良にも力を入れています。また、平成29年度には倒伏がみられたほ場もあったことから、施肥体系の改善も検討しています。

飯崎生産組合では、基盤整備されたほ場をはじめ、周辺に広がる農地と農村機能の再生に向けて意欲的に取り組んでいます。

# ワイヤーメッシュ柵で広域的なイノシシ被害対策を!

相双地域の野生鳥獣による被害は、面積で2,282 a、金額で2,450万円（平成28年度）に及び、そのうち、イノシシによる被害は9割以上を占めており、被害が発生している地域も、以前よりさらに拡大しています。

市町村では、電気柵設置の経費助成等の対応をしていますが、高齢化や担い手への農地集積による営農の大規模化により、電気柵での管理が難しくなっています。

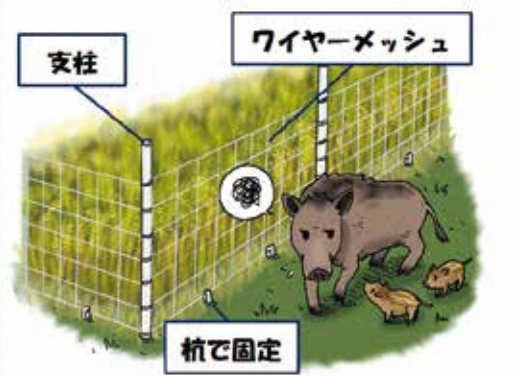
そこで本年度、普及部では相馬市と連携し、市内の磯部地区をモデル集落とし、ワイヤーメッシュ柵を利用したイノシシ被害の防止に取り組みました。今回は、ワイヤーメッシュ柵と設置の際の留意点について紹介します。

## ＜ワイヤーメッシュ柵って？＞

ワイヤーメッシュ柵は、ほ場内へのイノシシの侵入を直接防ぐ物理柵です（電気柵は「痛み」を動物に覚えさせる心理柵です）。

右の図のように、ワイヤーメッシュの柵を、支柱と杭でしっかりと固定し、ほ場の周りに張り巡らせることで、イノシシの侵入を防ぎます。

電気柵と比較して耐用年数が長く、管理が容易であるというメリットがあり、一度正しく設置してしまえば、長期的な効果があります。



設置前の点検の様子

## ＜ワイヤーメッシュ柵を設置するにあたって＞

### ☆設置前に行うこと：設置する集落の環境診断

設置したい場所を実際に見回って以下の項目を確認し、設置の計画を立てましょう。また、見回りの際に気になった点は、地図に記入して集落で検討しましょう。

確認項目	確認内容
何を守るか、どこまで守るか	⇒ 設置する範囲を決めましょう。
対象害獣は何か、どこから来るのか	⇒ けもの道、足跡等の痕跡から設置方針を決めましょう。
設置場所の確認	⇒ 草刈り等の管理のしやすさを考慮して検討しましょう。

### ☆設置の際には：正しい設置方法で！

ワイヤーメッシュ柵は防除効果が高いですが、正しく設置しないと効果が発揮されません。以下の項目に留意して正しい設置方法を確認しましょう。

設置作業	留意点
支柱を打ち込む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単には抜けないように深く打ち込む</li> <li>・支柱は柵の内側（耕作地側）にくるようにする</li> </ul>
柵を設置する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柵の縦の鉄線を外側（対象害獣が来る側）に向かって設置する</li> <li>・隣接した柵の端どうしを重ね合わせ、打ち込んだ支柱に固定する</li> <li>・柵どうし、また柵と地面の間に隙間が出ないようにする</li> <li>・傾斜地では特に、地面等との間にすき間ができない工夫を！</li> </ul>
杭で固定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支柱と支柱の間など、すき間ができやすい箇所は杭をしっかりと打ち込む</li> <li>・杭は内側から外側へ打ち込む</li> </ul>



支柱でしっかりと固定する



設置後のほ場の様子

### ☆設置した後は：柵の管理はしっかりと

管理は電気柵よりも容易ではありますが、草刈り等の管理は必要となります。

集落全体に設置した場合は、ほ場だけでなく集落全体を守る防護柵となります。集落に関わる住民（担い手、地権者等）全体で協力して管理を行いましょう。

## 平成29年産米の全量全袋検査及び平成30年産米の対策について

### 1 平成29年産米の全量全袋検査結果について

2月末現在、相馬地域の検査数量は226,892点で、放射性セシウム濃度は全量が基準値(100Bq/kg)未満で、25～50Bq/kgが1点のみで、それ以外はすべて測定下限値(25Bq/kg)未満でした。

相馬地域では、平成26年産米以降、基準値を超過する米は検出されていません。

また、県全体の検査数量は9,878,362点で、放射性セシウム濃度は全量が基準値未満で、検査点数の99.99%が測定下限値未満でした。

### 2 平成30年産米の放射性物質吸収抑制対策について

米の放射性セシウムの吸収を抑制するためには、生育初期に土壌中の交換性カリ含量を高めることが重要であり、吸収抑制対策としてのカリ施用が有効です。このため、吸収抑制効果の高い塩化カリにより目標値(作付前の水田土壌における交換性カリ含量の目標値25mg/100g乾土)を確保した上で、慣行の基肥(窒素・リン酸・カリ)を施用します。

土壌分析結果に基づく、平成30年産米の作付に必要な塩化カリの10a当たりの施用量は、①相馬市、新地町では10kg、②南相馬市では50kg、③飯館村では40kgとなります。

### 3 交差汚染対策について

営農再開にあたって、震災前に所有していた籾摺機や計量機を久しぶりに使用すると、放射性セシウムによる交差汚染のリスクが高まります。このようなケースにおいては、洗浄だけでは十分でないため、「とも洗い」が必要となります。交差汚染米対策については、活用できる事業もありますので農林事務所、または最寄りの市町村に、ご相談ください。

また、米の全量全袋検査をする際には、放射性セシウム濃度の高いゴミ等の異物の混入や泥などの付着がないようにお願いします。

## 若手農業者が活躍しています!!

### 新規就農者の支援

当部には今年度15件の就農相談があり、農業次世代人材投資資金の活用や栽培に関する支援などを行い、新たに4名の方が就農したほか、今後も就農に向けた動きが見られます。

### 新規就農者交流会の開催

若手農業者の地域への定着と「仲間の輪」を広げることを目的に2月14日、第1回相馬地方新規就農者交流会が開催し、相馬地方の20～30代の若手農業者や新規就農者7名が出席しました。

交流会では「相馬地方の農業の理想像」についてグループワーク形式で意見交換を行い、参加者からは「他地域の若手農業者と出会えてよかった」等の感想があげられました。

### 青年農業者クラブ「A.C. ハマーズ2001」の活動

A.C. ハマーズ2001は相馬地方の若手農業者等による組織で、今年度は土づくりやGAPに関する研修会開催による会員の資質向上や、県内外での農産物の販売等により、相馬地方の農業の振興に取り組んでいます。

同世代の農業者と交流を持ちたい方や地域農業の振興に協力したい方等、新規会員を募集しています。



グループワークの様子



宮城県での農産物直売の様子

新規就農を考えている方やA.C. ハマーズ2001への加入を希望する方は当部 TEL0244-26-1150(地域農業推進課)までお気軽にお問い合わせください。